



あまてらすおおみかみ 天照大御神の別名

靈

この字は、何と読むのだろうか。

これは、「レイ」と発音するが、造語（新字）である。

日本にカナ文字が無く、漢字（当時の中国王朝で使われていた文字の意）しかなかった時代に、ある人が新しく作った漢字の読みを他の人に伝えるにはどうするのか。

広辞苑の説明によれば、「反切」^{はんせつ}によって行う。漢字音を示すのに

他の漢字を二字借りて、上の字（父字）^{とうし}の頭子音と、下の字（母

字）^{いん}の韻を合わせる中国流の方法である。

日本の発音で説明すると、借りる文字を力^{ちから}と丁^{てい}とするなら、

発音は、力（ㄌㄧˋ）と、丁（ㄉㄧㄥ）であるから、頭子音（ㄌ）と、韻の

（ei）を合わせて「lei」「レイ」となる。

新字「靈」という漢字は、レイと読んでね、と云うわけである。

実は、日本書紀では天照大御神を大日靈貴^{おおひるめのむち}と書く。

靈^{れい}は、レイ（靈^{れい}）を語源とする新字である。靈の略字は「巫女」^{みこ}

であるから、神の言葉を伝える巫女さんをイメージして作った文字であろう。

太陽を神と仰ぐ日本の神様の意を、口^{くち}を通して語る女性を、

日巫女^{ひみこ}Ⅱ日靈女と記すのである。

人は神様に多くのことを問い、答えを求めるわけであるから、

仲介役の巫女Ⅱ靈の代字は、上半分が従来通りの雨^{あめ}、下半分には

口^{くち}を三つも書き、更に性別を表す「女」の字を充てた。

日巫女^{ひみこ}の頂点に立つ靈女は「大」の字を先頭に充て、大日靈女と書くところを、「日本の大靈」として、その貴い女神の力を示すために新字を作って、「大日靈貴」とし、オオヒレイノムチと読めとした。「貴」はムチと発音し、貴いことを意味する。

この文字列の現在の発音は、オオヒルメノムチである。

新字を分解した「女」の字により、女^めという音が付加され、オオ

ヒレイメノムチとなり、オオヒルメノムチに変化したものだ。

天に在って、人々の心を照らす、日本の大靈を天照大御神と称し、

この女神をオオヒルメノムチと発音し、大日靈貴^{おおひるめのむち}と書く。

父字、母字は、日本書記のその箇所の「注」に、カと丁で標音す

る旨が書かれている。このことを「力^{りき}丁^{てい}の反^{かえし}」と云う。

令和五年四月二十六日

大中臣正比呂 記